

香美町 農委だより

No. 44
令和7年9月25日発行

発行 香美町農業委員会
編集 香美町農業委員会
情報部会

兵庫県美方郡香美町香住区香住870-1
電話 0796-36-0846



田園風景と村岡ダブルフルウルトラランニング

今年も収穫の秋となり、町内でもほぼ稲刈りも終わった頃かと思います。昨年から米価の高騰が続き、生産者にとってはありがたい反面、消費者にとっては生産地でも米が買えないといった事態にもなりました。

何よりも安定供給と安定価格が求められるところです。

村岡区では、毎年9月の最終日曜日に村岡ダブルフルウルトラランニングが開催され、2千人ものランナーが秋晴れの田園風景の中を爽やかに駆け抜けていきます。本町の秋の風物詩となっています。

◆◆◆ 本号の主な記事 ◆◆◆

- ◆頑張っている農家の皆さんの声…………… P2～3
- ◆編集後記…………… P4
- ◆シリーズその②③ 我が村の自慢…………… P4

我が村の 自慢 シリーズ その23



桔梗咲き乱れる『遍照寺』

香住区小原の遍照寺では、7月に入れば紫の桔梗花が境内一面に楚々として咲き、私達を花の浄土へ誘い、圧巻そのものです。

客殿にてお接待の美味しい茶菓子を友として、桔梗を眺めながら静かに過ぎる時間は、癒され心鎮まる至福の一時です。

遍照寺は、寺歴を辿れば千年を超える古寺ですが、田舎の普通のお寺でした。

お世辞にも綺麗なお寺とは言えず、草を除き花を育てて境内の整備をしていたところ、苔の中に咲く一輪の桔梗花に会い、これぞ当寺に似合う花と感動し植栽を始めました。

植栽を始めて20年、公開を始めて15年となりましたが、いつの間にか人呼んで「日本3大桔梗寺」の一つとなり、津々浦々より足を向ける人たちが賑わいます。

桔梗は、字の如く「更に吉を招く」開運の花であり、見頃は7月中の雨後、曇天日が綺麗です。

香住区小原 石部 賢應

編集後記

今年は、米不足による「米価の高騰」と「備蓄米の放出」が、私たち生産者とは関係ないところで繰り広げられてますが、昨年は2割高程度で出荷して販売価格は2倍ですから、この差はどう捉えればよいのでしょうか。とはいっても、これまでの「安すぎたお米」に世間の注目が集まり、「適正価格に向けて」という機運が高まってきたことは、喜ばしいことではないでしょうか。

令和7年産は、そこそこの価格になりそうですが、これが継続できるよう農林水産大臣の手腕に期待したいところです。

また、記録的な猛暑と干ばつが但馬地域を襲いました。水不足による取水制限を設けるなど、水利を共有する農家で協力し、何とか乗り越えたようですが、収量等が心配されています。

先が見通せませんが、私たちは、今ある農地を守り、とにかくおいしいお米を作って出荷すること。これに尽きます。

心配事が尽きませんが、皆さん頑張ってくださいませ。

香美町農業委員会

情報部会長 岡田 久志



頑張っている 農家の皆さんの声

「八原の里の 担い手」

香住区八原
奥谷 康忠さん

私は幼少期より、祖父の影響で、稲作に携わってきました。祖父の体調不良もあり離農している時期もありましたが、10年ほど前、地域の人から「田んぼを耕



作できなくなつたので、引き継いでもらえないか」と相談を受けたことがきっかけで、再び稲作を始めることになりました。

農業者の高齢化や後継者不足により、農作業ができなくなる人が増えるなか、耕作放棄地が増加している現状に危機感を感じていました。放置された田んぼは荒れ果て、雑草や害虫の発生源となり、周囲の田んぼにも悪影響を及ぼす可能性があるので、私は農作業が好きで、体力もまだ十分にあるので「この状況をなんとかしたい」と思い、田んぼを引き継ぎ、稲作することを決めました。

当初は田んぼの規模も小さく、会社員をしながらでも稲作を続けることができました。しかし、その後も「田んぼを耕作できなくなった」という相談が相次ぎ、引き継いだ田んぼが増えていくにつれて、会社員との両立は難しくなりました。そこで考えたのが、田植え機、コンバイン、

トラクターなどの農機具を大型化し、作業効率を上げることでした。大きな投資になりましたが、作業時間を短縮することができ、会社員と両立しながら、稲作を続けることができています。

今では、農業アプリやインターネットを活用し、更なる効率化を図っています。作業時間の短縮によりできた時間を活用し、コメの収穫量を増やすための方法を調べたり、農機具の整備を行ったり、新たな取り組みにもチャレンジしています。

農業は、知られる通り大変な仕事です。体力的にきつく、休日は少なく、収穫量が天候に左右されるなど、苦労も多いことは事実です。しかし、農業にはそれ以上に魅力的な側面もたくさんあります。試行錯誤しながらでも解決策を見い出せた時の喜び、農業を通じて広がる様々な出会いによって、いつも新しい発見があります。そして何より、自分が手塩にかけて育てたお米を「おいしい」と言ってもらったとき、これまでの苦労が吹き飛ぶほど、うれしく思えます。

これからも、人と人との繋がりを大切にしながら、農業を続けていきたいと思っています。

「村岡種子 生産組合」

村岡区宿
上田 富久雄さん



私たち村岡種子生産組合は34名の組合員、19haの圃場面積で種子作りに取り組んでいます。

全国的な情勢として温暖化による高温障害が深刻な問題となっており、各県毎に高温耐性を持った品種への変遷が急速に進んでいます。兵庫県においては、令和7年度から「キヌヒカリ」の代替

品種として「コノホシ」が開発され、県南部から栽培が始まっています。県には、8つの種子生産組合があり、但馬には村岡、養父市、新温泉町の3組合があります。ここでは、14品種の種子が栽培されており、県内をはじめ近畿、中国地方に供給されています。本組合では「コシヒカリ」と「きぬむすめ」の2品種を栽培しています。

種子は最も基礎的な資材であり、優良な種子の生産が欠かせません。米不足がいわれており、解消には作付け面積の拡大とそれに見合う種子の供給が必要になってきます。優良な種子の条件は純正・健全・良質であることです。純正とは、

- ①遺伝的に純粋
 - ②混種がない
 - ③異物・異種穀粒の混入がない。
- 健全とは、
- ①発芽率が高い
 - ②病害虫に侵されていない。
- 良質とは、
- ①粒の充実・揃いが良好
 - ②被害粒がないこと
- などです。

そのため本組合では、2回の圃場審査、病害虫対策における適期防除や圃場管理などの研修会を年に2回行うと

ともに組合員相互の情報交換を積極的に行っています。

よく「刈り取りはどうですか？」と聞かれますが、混種や異物を避ける目的で刈り取りは組合が保有している種子専用コンバインで熟練したオペレーターが作業します。従って「刈り取り作業や籾すりはしなくて良いですよ。」と説明して新規加入を勧めています。

種子生産は契約栽培であり良質な種子の数量確保が大切です（契約収量は10a当たり400kg）。令和6年度は、高温が続く厳しい条件下にあつても、令和5年度収量を上回りました。需要者には「村岡の種子は、粒は小さいが品質が良い」と高い評価を得ています。これらは組合員みんなの努力のたまものと思っています。

ただ、問題点もあります。それは、生産者の高齢化と担い手不足による採種面積の維持、近年の異常気象下における品質管理及び数量確保、病害虫、とりわけ、稲こうじ病とばか苗病、イネカメムシなどへの対策です。

米は我が国の基本的な食料であり、かつ基幹的な作物であることから、優良な種子生産こそは種子生産組合の責務であると自覚し、「良い種を

作りましよう」と声を掛け合つて、優良な種子の生産確保のため、組合員が一つになつて取り組んでまいりたいと思っています。



「数を数える」

小代区猪之谷
岡田 正貴さん

20年ほど前、小代区へのUターンをきっかけに、農業を始めました。現在は、50種類ほどの野菜を育てています。好奇心旺盛な私は、近所の

農家の人に作物の育て方を尋ねて回りました。

しかし、残念ながら、なかなか定量的な答えは返ってきませんでした。「農業は毎年1年生。天候は毎年変わるから、経験と勘で作業する」という。具体的な数値を求めるも、返ってくるのは経験に基づく定性的な意見ばかりでした。

私は、農業はより一層デジタル化を進める必要があると考えています。「収穫量は？」と尋ねると、「いつもより少し多い」との回答。では、「少し」とは、5%なのか20%なのか。そもそも「いつも」とは、どの期間を指すのか。これを明確にするには、数値化が必要です。種まきの量、発芽率、植え付けのタイミング、施肥の量、収穫量、気候条件、作業内容など、あらゆるデータを記録しなければなりません。そうすることで、前年比や面積当たりの収量を比較でき、改善策が見えてきます。

例えると、ある作物の種まきの時期を、通常よりも1ヵ月ほど早める実験を行いました。私の持つ持っているデータによると、暑くなる時期が年々早くなっていたからです。早めることで作物が大きくなり、倒伏の危険がありました。そこは種の量を増やすことで

調整しました。結果、品質を落とすことなく収量を上げることが成功しました。こういった数字の管理を、パソコンを使って行っています。今後も、数字を活用し、実験し、良い野菜が多く採れるよう努力してまいります。

数を数えることには、他にも利点があります。農業は繰り返し作業が多いため、人で行う場合、数を数えることで疲労感が軽減される効果もあると言われています。騙されたと思って、1から100まで数えながら作業してみてください。そして、記録をつけてみてください。そうすれば、農業がもっと楽しくなります。

